

城陽高校図書館だより

ふみくら

2022-No. 4

令和4年10月24日

京都府立城陽高等学校図書館発行

読書の秋です!

校内読書週間はじめます

秋も深まりようやく過ごしやすくなりました。読書の秋を満喫して下さい。全国的には10月27日から11月9日まで第76回読書週間です。すてきな読書体験をしましょう。校内では、10月31日(月)にハロウィンイベントを行います。そして、11月14日(月)~18日(金)は校内後期読書週間です。今年もいろいろなイベントがあります。

<読書週間のイベントいろいろ>11/14(月)~11/18(金)

古雑誌リユース

図書館で購入している雑誌のうち昨年10月号くらいまでをリユース。
ひとり1日1冊。先着順で持ち帰れます!!
さらに最終日は何冊でも持ち帰れます!!

➡ 今年は例年より多い種類の雑誌を提供します。

雑誌付録プレゼント

雑誌の付録(クリアファイルなど)をプレゼント!

応募制→応募者多数のものは抽選となります。古本提供に伴う優先券を持っている生徒には優先的な抽選をおこないます。抽選日は18日(金)昼休み
(古本提供に伴う優先権については後述)

第12回JHSLビブリオバトル

11月18日(金)放課後

図書館で第12回ビブリオバトルを行います。

ビブリオバトルとは?!参加者が順番に本のプレゼンをし、最後に参加者と観覧者が投票で一番読みたくなった本を決めるコミュニケーションゲームです。プレゼン期間は原則4分間、先生と生徒のミックスバトルを予定。出場したい人は11月11日(金)17:00までに図書館へ来て下さい。

1位には図書カードを差し上げます。また、参加賞も予定しています。

古本交換会

いらなくなった本を図書館に持ってきて下さい。1冊につき1枚古本交換券を渡します(ただし、教科書・雑誌はもちろん対象外!)。古本交換券1枚で欲しい本1冊手にすることができます。交換券のない生徒には1冊10円で販売します。が、出来るだけ交換券での取引をお願いします。(今回の収益は生徒会予算に繰り入れる予定です)

(現在集まっている本) J.K.ローリング、恩田陸、岡島二人の小説など



古本募集中!

まだまだいろいろな本が
欲しいです。
今年はマンガ、CDも募集
しています!(雑誌はダメです)



お願いです

たくさん本を提供してくれたクラスに優待券を差し上げます。

古本を提供する際にクラスを教えてください。11月11日(金)現在でのクラスごとの提供冊数を集計して一番多く提供してくれたクラスには(一人一枚として)生徒人数分の読書週間または冬の図書館フェアの優待券を差し上げます(優待券があると雑誌付録プレゼントや冬の図書館フェアのポスター争奪戦で有利になりますよ)。ただし、一番多かったクラスの提供冊数が20冊未満の場合は該当クラス無しとします。

古本交換会は11月18日は昼休みまでです。

放課後はビブリオバトルのため交換会はやっていません。ご注意ください。

<新企画>校内読書感想画コンクール

読書で得た感動や浮かんだイメージを絵画で表現して下さい。感想文は苦手という生徒も絵画で表現することはできるではありませんか?ぜひ、チャレンジして下さい。

(用紙・画材)用紙は画用紙、ケント紙などなんでもよい。画材は、クレヨン・パステル・水彩・油彩など自由。用紙は各自で用意して下さい。用意できない場合は、図書館カウンターまで申し出て下さい。

(寸法)特に指定しません。

(提出・締切)11月15日(火)17:00までに図書館へ

(審査)11月17日(木)昼休み 図書館またはピロティで実施予定。

生徒の投票をもとに司書、図書担当、芸術科の総合的判断で行います。

(賞品)優勝者には図書カードを進呈

(注意事項)作品は、個人のオリジナルで未発表作品であること。

読んだ本にある絵をまねたもの、ポスター・映画・DVDなどの場面をまねたものは審査の対象としません。

<感想画コンクールに関連してのお知らせ>

読書感想画は京都府コンクール・全国コンクールもあります。こちらは校内のコンクール要項より細かい取りきめがあります。京都府コンクール等を視野に入れた作品に取り組みたい生徒は図書館まで相談に来て下さい。

ハロウィンイベント今年は10/31です!

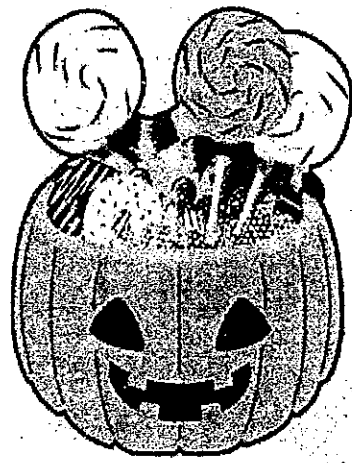
今年のハロウィンは10月31日(月)です。カウンターで合い言葉を言うとお菓子がもらえます。一人一回限りです。さらに図書を借りるとチロルチョコももらえます。お菓子はなくなり次第、終了です。

今年の合い言葉は

Happy Halloween! Sweats please!

です。

(お菓子のプレゼントはなくなり次第終了です)



長崎・福岡にちなんだ小説

今年の2年生の研修旅行は長崎・福岡方面です。そこで長崎や福岡が舞台の小説を紹介します。



『百瀬、こっちを向いて。』中田永一著

宮崎先輩の頼みでノボルは百瀬陽といつわりのカップルを演じ、先輩とその恋人といっしょにダブルデートをすることになる。いつわりのカップルを演じることに気が滅入るノボルであったが、いつしか百瀬に好意を持っていることを友人・田辺に指摘される。ノボルと百瀬の恋の行方は・・・博多を舞台にしたみずみずしい恋愛小説。2014年映画化されました。

『くちびるに歌を』中田永一著

舞台は長崎県五島列島。産休代替で中学校の合唱部顧問となった柏木ユリの美貌に魅せられた男子生徒が続々合唱部に入部。女子しかいなかった合唱部に男女のいざこざが発生。そんな中ユリはNHKの音楽コンクールに男女混声で独断で応募、ますます、男女間の中が悪くなる。ユリは課題曲にちなみ、15年後の自分に向けて手紙を書くように指示する。その手紙を通じてそれぞれが抱える秘密や悩みが解き明かされ次第に部内のわだかまりが解消されていく。そして大会の本番をむかえる。



『祭りの場』林京子著

長崎での原爆被爆の体験を語るこの作品は淡々とした書き振りが、かえって原爆投下直後の長崎の街の、被爆した人々の様子を生々しく伝えている。被爆し即死を免れながらも放射線障害とみられる症状で命を脅かされる主人公や、出陣する仲間を送別する「祭り」の中、学徒たちが被爆死する様子がリアルに描かれています。群像新人賞・芥川賞受賞作であり、林京子の代表作。



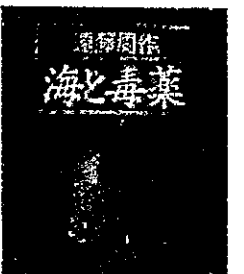
『めだかの列島』今井美沙子著



人間なんてめだかのように弱い存在なのだから、助け合って生きてゆかねば...。ふるさと、長崎県五島で肩寄せ合って生きる人々を描いて、大反響を得た今井美沙子のデビュー作...

『海と毒薬』遠藤周作著

第二次世界大戦中に、捕虜となった米兵が臨床実験の被験者として使用された事件(九州大学生体解剖事件)を題材とした小説。作中では福岡にある九州大学ではなく「F市の大学病院」とのみあり、ストーリーも大幅に脚色されている。B29の搭乗員の生体解剖を行う医師たちがどうしてこのような残虐行為を行ったのかを描く遠藤周作の名作。映画化された作品は、ベルリン国際映画祭銀熊賞を受賞している。

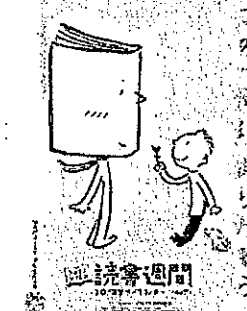


『沈黙』遠藤周作著

江戸時代、長崎に潜入したポルトガル司祭ロドリゴの苦悩と背教を描く遠藤周作の長編小説。

『69 sixty nine』村上龍著

1969年の長崎県佐世保市を舞台に、学校のバリケード封鎖、フェスティバルの開催など作者自身の実体験を基にした自伝的な青春小説



知ってますか? 読書週間のこと

10月27日から11月9日は読書推進運動協議会が主催する読書週間です。この期間は書店や公共図書館でいろいろなイベントが行われています。みなさんも地域の書店や図書館に行ってみて下さい。今年の標語は「この一冊にありがとう」です。